

ひと

小泉八雲を小説に描くベトナム系米国人作家

Monique Truong

モニク・トゥルンさん (47)

明治の日本を世界に紹介したギリシャ生まれの作家、ラフカディオ・オ・ハーン（小泉八雲）を描く小説を執筆中だ。今春、3カ月間、日本に滞在し取材を重ねた。

6歳の時、ベトナム戦争末期のサイゴン（現・ホーチミン）を家族と脱出、米国南部に移住した。人種差別と孤独感のなか、文学に出あった。大学を出て弁護士になったが、3年で辞めて作家に。

歴史のすき間にこぼれ落ちそうな小さな事柄から、豊かな物語を紡ぎ出す。第2次大戦前のパリを舞台に、ベトナム人の料理人を描いた「ブック・オブ・ソルト」は米国で数々の文学賞を受賞した。

どの作品も、主人公は故郷から切り離された人たち。緻密な表現

と大胆な構成で、登場人物への共感呼び覚ます。詩を書くように全ての言葉に意味を込める。1冊書くのに数年かかる。苦しい作業だが、「私にとってこの世界を理解する唯一の方法なんです」。

日本人を礼賛する八雲の著作を読み、「書かれていない何かがある」と関心を抱いた。小説には八雲をめぐる4人の女性を登場させる予定だ。特に妻セツに心をひかれる。「陰に隠れがちな彼女こそ、真の物語作家」

仮題は「スイーテスト・フルーツ」。どの作品も「食」が重要な役割を担う。日本で気に入ったのは塩辛とホヤ。「でもハーンはきっと好きじゃなかったと思う」と笑った。文・林美子 写真・戸村登

